

第2回 積雪寒冷地における道路舗装の長寿命化と

予防保全に関する検討委員会

議事概要

■ 第2回検討会：令和4年3月15日

【議題】

- ・積雪寒冷地に対応した舗装技術に関する情報提供
- ・今後のスケジュール（案）について

【議事概要】

○各委員より積雪寒冷地に対応した舗装技術に関する情報提供、今後のスケジュール（案）について報告があり、以下を確認した。

◇積雪寒冷地に対応した『3本柱』の舗装技術に関する情報提供

1. 耐久性の高い舗装を設計・施工する技術
 - ・コンクリート舗装の断熱工法の紹介
 - ・北海道型SMAの高耐久化に関する技術の紹介
 - ・新たな舗装材料（合材、乳剤）の紹介
 2. 効率的な点検・診断技術
 - ・AI活用等による舗装点検・診断の紹介（仮称：HibiMiru）
 3. 効果的な補修技術
 - ・ポットホール・支持力低下の要因となる水の浸入を抑制する技術の紹介
 - ・新たな補修材料の紹介
- ・現場条件・施工条件、施工方法、材料の供給方法など、新たな舗装技術に関する適用条件等を確認し、実用化に向けた検討を行うことが重要である。

- ・舗装点検は、「ひびわれ」「わだち掘れ」「IRI平坦性」の3要素が必要。AIを活用した舗装点検技術は、現時点で「ひびわれ」について概ね実用化の目処が立っている。
- ・22年度は札幌開発建設部において、残る2要素の運用、課題抽出を行い、23年度からの本格運用を目指している。
- ・新たな舗装技術について、コスト面を優先するか、機能・構造面を優先するか、それぞれの状況に応じて道路管理者が使用できるようなとりまとめ方法を確立する必要がある。

◇関係機関による取組事例の情報提供

- ・基層用遮水性アスファルト混合物についての情報提供。（NEXCO東日本）
- ・本州では排水性舗装からの浸透水により、基層以深の剥離等の損傷が多発したため、基層に水密性(遮水性)を高める配合粒度に標準化されている。北海道支社では表層に高機能舗装Ⅱ型(SMA)を採用しているものの、基層の損傷が増加していることから、昨年度よりこの基層配合と改質アスファルトを標準適用している。

◇今後のスケジュール（案）について

- ・各技術について、現場実証を実施し、ハンドブックや設計要領・仕様書へ反映させていく。
- ・産学官が連携して研究を進めていくことが重要である。
- ・成功事例も良いが失敗事例も公表していくことが大事である。
- ・この委員会の成果を道内はもとより道外にも公開することが重要である。

以上